

平成 28 年度第 1 回富津市総合教育会議 会議録

1 会議の名称	富津市総合教育会議
2 開催日時	平成 28 年 12 月 22 日 (木) 午後 2 時 30 分から午後 3 時 2 分
3 開催場所	富津市役所本庁舎 4 階 401 会議室
4 審議等事項	○付議議案 (1) 富津市教育施策に係る大綱について
5 出席者名	高橋恭市市長、岡根教育長、宮田教育長職務代理者、榎本委員、坂部委員、能城教育部長、今井教育部参事兼学校教育課長、鶴岡教育総務課長、鈴木教育センター主幹、山口生涯学習課長、鈴木公民館長、刈込教育総務課長補佐、高濱教育総務課主事
6 公開又は非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部非公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 非公開の理由	(理由)
8 傍聴人数	0 人 (定員 6 人)
9 所管課	教育部教育総務課庶務係 電話 0439-80-1340
10 会議録 (発言の内容)	別紙のとおり

発 言 者	発 言 内 容
事務局 (能城部長)	ただいまから、平成 28 年度第 1 回富津市総合教育会議を開催いたします。本日の進行は、教育部長の能城が勤めさせていただきます。どうぞよろしくをお願いいたします。それでは、開会に当たりまして、市長からごあいさつを申し上げます。
高橋市長	皆さん、こんにちは。平成 28 年度第 1 回富津市総合教育会議にご出席いただきまして、ありがとうございます。教育委員の皆様には、富津市の学校教育と社会教育の充実のために、日々ご尽力をいただきまして、重ねてお礼申し上げます。さて、平成 27 年 4 月に教育行政の大改革が行われ経過措置の中で、本年 4 月、新教育長として岡根教育長が任命され教育委員会の代表となりました。また、私が市長選挙におきまして富津市政の重責を担うこととなり、この総合教育会議を招集し、富津市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱を委員の皆様との協議を経て策定することとなりました。私はこの総合教育会議については、市長と教育委員会が、円滑に意思疎通を図り、市の教育の課題や目指す姿等を共有しながら、同じ方向性のもと、連携して効果的に教育行政を推進していくために行われていくことが大切であると考えております。委員の皆様には、この点を踏まえて今後ご協力くださるようお願い申し上げます。会議冒頭のあいさつとさせていただきます。どうぞよろしくをお願いいたします。
事務局 (能城部長)	ありがとうございました。次に会議録署名人の指名ですが、会議運営要領第 4 条第 3 項の規定により、市長と会議において指名した委員をお願いすることになりますので、市長は、会議録署名人の指名をお願いいたします。
高橋市長	本日の会議録署名人は、岡根教育長をお願いいたします。
岡根教育長	はい。承知いたしました。
事務局 (能城部長)	ありがとうございます。本日の会議録署名人につきましては、市長と教育長をお願いいたします。また、当会議の議長につきましては、会議運営要

高橋市長	<p>領第2条第3項の規定により市長にお願いいたします。</p> <p>それでは、会議運営要領の規定により、私が議長を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。早速ですが、議事に入らせていただきます。括弧1、富津市教育施策に係る大綱についてです。別添のとおり大綱（案）を定めましたので、私から説明いたします。私が定めたい「富津市教育施策に係る大綱」は、資料上段の野線で囲ったものです。読み上げます。「富津市教育施策に係る大綱（案）」平成28年12月22日、富津市長高橋恭市、富津市及び富津市教育委員会は、『豊かな心を育む教育と文化の香るまち』を目指し、それぞれの施策を推進します。1では、大綱の法的な位置づけと策定の必要性について述べました。2では、教育振興のための施策の方向性や目標を示している富津市教育施策について、教育基本法が策定に努めるよう定めている「教育振興基本計画」の富津市版とも言えると考えられる旨を述べています。3では、本市は、「経営改革プラン」、「総合戦略」及び「富津市公共施設等総合管理計画」を策定し、将来に向けて持続可能な行財政運営を実行してまいります。最後になりましたが、富津市教育委員の皆様には、今後も市長部局との相互の信頼と連携の関係を大切にしながら、本市の教育・文化・スポーツの振興に努めていただくよう期待しております。富津市教育施策に係る大綱については、ただいまご説明申し上げた（案）のとおり定めたいと思いますが、如何でしょうか。よろしくお願いいたします。</p>
各委員	異議なし。
高橋市長	<p>ありがとうございます。それでは、「豊かな心を育む教育と文化の香るまち」を目指し、それぞれの施策を推進します。を富津市教育施策に係る大綱と定めます。他に何かございますか。ないようですので、これをもちまして議事を終了し、進行を事務局にお返しいたします。ご協力ありがとうございました。</p>
事務局 (能城部長)	<p>市長におかれましては、議長職ありがとうございました。委員の皆様、その他に何かございますか。はい。岡根教育長。</p>

岡根教育長	はい。折角の機会ですので、自由な意見交換の場としたらよろしいと思いますが、如何でしょうか。
事務局 (能城部長)	はい。ただいま岡根教育長から、自由な意見交換の場とする提案がございましたので、委員の皆様は、何かございましたらお願いいたします。はい。宮田委員。
宮田委員	はい。小中学校の再配置計画について、計画を進行するにあたってかなり時間がかかっていると思いますが、市長のお考えがございましたら、お聞かせください。
高橋市長	はい。宮田委員さんもお存知のとおり、特に天羽地区では複式学級があるような厳しい状況でございます。そうした中でも、各校の先生方の豊富な経験とご努力によりまして、小規模校でのデメリットを補う工夫をさせていただいており、その良さが活かされた教育をされているというように感じております。しかしながら、その一方で、やはり通常規模の学級でなければ経験できないことをその子どもたちが現在経験できていないのではないかなという不安も、私自身としては正直持ち合わせております。そのような中で、私の考えとしましては、やはり児童生徒数がある程度いる適正規模の学校を設置することが、保護者の方々が求めていることではないかなというように感じておりますし、そのような中で、環南小学校・関豊小学校を環小学校へ統合しております。宮田委員さんがご指摘のとおり、時間が経っているというのは私自身も感じております。小学生は6年、中学生は3年も経てば卒業となりますので、もしそこに課題があるとすれば、そのような議論は極力スピード感を持って進めていくべきだと考えております。以上です。
宮田委員	ありがとうございました。
事務局 (能城部長)	他に何かご質問・ご意見等はございますか。はい。榎本委員。

<p>榎本委員</p>	<p>はい。再配置計画についてですが、平成 27 年度の教育委員会制度の改正に伴って、総合教育会議を設置し、予算権限がある市長部局と教育委員が協議・調整を行うことで教育施策の方向性を共有し、執行することが可能になったと思います。先月、教育委員会の長年の懸案だった小中学校再配置計画（案）が策定され、平成 32 年度を目指して天羽の 4 小学校、天羽中学校と天羽東中学校、大貫中学校と佐貫中学校の統合計画が策定されました。文部科学省が作成した適正規模というのは、小学校では 1 学年 2 学級以上、中学校では 3 学級以上が望ましいとありますが、富津市ではそこまでの再配置ではなく、小学校では各学年 1 学級以上、中学校では 2 学級以上で進めていければと私は思っております。学校というのは、子どもたちの勉学の場であるとともに地域の皆様の憩いの場、防災の拠点でもあるわけですので、この計画を遂行するためには、地域の方々、保護者の皆様への説明は欠くことができないと思っております。この再配置を進めていく上で、統合に必要な子どもたちの交通手段、または跡地利用方法など具体的に示すことで、保護者・地域の方々の理解がより得やすくなるのではないかと考えております。そこで、特に天羽の 4 小学校の統合は広域な学区となりますが、交通手段についてはどのようにお考えでしょうか。また、併せまして跡地利用につきましても、今現在で何か構想がございましたら、お答えいただきたいと思っております。</p>
<p>高橋市長</p>	<p>はい。私自身の意見としましても、学校の再配置を考えた時に、やはり通学の足というのは必ず確保しなければ、保護者の方々の賛同は得られないのではないかと考えておりますので、それはこちらから統合について説明する際に最優先しなければならない部分だと感じております。また、仮に統合が決定して円滑に計画が進行した場合に、平成 32 年度には一時に 5 校が閉校となり跡地として空くこととなります。残念ながら、一時に全ての跡地利用を解決できるかという、それは難しいのではないかと私自身は感じております。ですから、それまでに関豊小学校の統合の際の反省を活かしながら、すぐに対応ができるような形には整えていかなければならないと考えております。また、全てを民間に払い下げましょう、貸しましょうということではなくて、その時代・時期に富津市で有効活用するべきものが考えられるのであれば、そのような点も踏まえた中で考えていくべき</p>

	<p>だと思えます。まずは、スクールバスについては、統合の条件として最初に説明を求められる部分だと思えますので、その点については明確に決めるべきだと思えます。その後の跡地利用に関しましては、やはり地域の皆様のご意見も聞きながら検討を進めていくというのが現状ではないかと思えます。</p>
<p>榎本委員</p>	<p>特に、金谷方面に住んでいる児童生徒については、電車通学の方もいるのではないかと思えますが、今後は電車の本数が減少することも考えられます。そのような中で、スクールバスについては細やかな配慮が必要だと思えますので、よろしく願いいたします。ありがとうございました。</p>
<p>事務局 (能城部長)</p>	<p>他に何かご質問・ご意見等はございますか。はい。坂部委員。</p>
<p>坂部委員</p>	<p>はい。先月の委員会で、平成 32 年に向けての再配置計画ということで案が出され、その中で天羽・天羽東中が平成 32 年度に向けて統合ということでしたが、その 10 年後には、1 学年 1 学級ということが考えられるということで、その点についても考慮しながら再配置について検討していかなければならないと思えますが、市長はどのようにお考えですか。</p>
<p>高橋市長</p>	<p>はい。10 年後の人数については行政として把握しております。確かに、今後、子どもが増えない限りは、残念ながらそのような時期を迎えることは起こり得ることだと思えます。そのような状況になった場合は、富津市の地理的な事を考えて、また、学級数のひとつの目安として、今回、富津市では 2 学級が妥当であるというお話をさせていただいていると思うので、私はそのような状況になった際には、統合について検討するお話をさせていただきたいと思っております。私自身は中学校で統合を経験しておりますが、やはり小学校から中学校へ入学する時の統合する緊張感というか、気持ちのリセットする部分であるというか、そのような面から考えても必要ではないかと個人的には思っております。そういった意味からしましても、天羽中学校が 1 学級になっても、小学校 2 つが 1 つになるかもしれない学校なので、その辺りは現状の課題をクリアさせていただくことを優先</p>

	的に考えていくべきだと思います。
坂部委員	ありがとうございました。では、小中一貫校という考えはございますか。
高橋市長	はい。私自身としましては、小中一貫校のメリットについてはよくわからないというのが正直なところでございます。私の個人的な経験の中で、成長していく過程で統合を経験したことについては、いい刺激があったと感じております。地域的には、もしかしたらそのような考えも含めて色々な協議をするべきところもあるかもしれません。しかしながら、個人的には小中一貫校というのはどうなのだろうか、9年間ひとつのクラスでいることが子どもたちにとって本当に良いことなのだろうかというように感じております。そうであれば、やはり適正規模の学校をつくることの方が良いのではないかと私個人としては考えております。岡根教育長はどのようにお考えでしょうか。
岡根教育長	はい。私の意見としましては、ある程度規模を有するという意味では、小学校と中学校が一緒になって大きな学園のようなものをつくるという部分はあるかもしれませんが、1学級のみですずっと9年間を同じ環境で過ごすというのはあまり意味がないように思います。英才教育のようなものを小中一貫校で行うというようであれば話は別だと思いますが、義務教育ですからそこはなかなか難しいと思います。かつては、私の住んでいる地区にある佐貫小学校と佐貫中学校を一貫校にしたら良いと考えていましたが、今は一貫校にしても小規模校になってしまうので、なかなか難しいのが現状でございます。教育的な意味が高ければ検討材料にはなるかもしれませんが、現状では小中一貫校については考えておりません。
坂部委員	ありがとうございました。
事務局 (能城部長)	他に何かご質問・ご意見等はございますか。はい。宮田委員。
宮田委員	はい。先ほどの話に関連しているかもしれませんが、人口減少問題につい

<p>高橋市長</p>	<p>て、今年の子どもの出生数が初めて100万人をきったということが最近のニュースで報道されておりました。全国的なことで仕方が無いことなのかもしれませんが、富津市では合計特殊出生率の低下、未婚率の増加、若者の転出の増加等の傾向が近隣の市町村よりも多くあるようですが、これら人口減少対策について、市長のお考えを聞かせてください。</p> <p>はい。宮田委員さんからお話いただいたとおり、富津市の人口減少の要因というのはまさにそのような部分だと思います。富津市の人口減少については、自然減という部分がかかなり大きな部分を占めています。即ち子どもが生まれていないということだと思っておりますが、少しでも数字を上乗せしていく、また外部から子育て世代の方々に、富津市に移り住んでもらうということしか解決方法はないのではないかと感じております。そのような意味では、外部から来ていただく方達に関しては、子育て環境や教育というところにメリットを感じていただくということが、現実的に富津市にできることなのではないかと感じております。以前に市職員と情報交換を行ったのですが、その際に『結婚するとしたら、住む場所には何を求めるか』というこちらからの質問に、『便利さを求める』と回答する人がほとんどであり、私としては衝撃を受けました。残念ながら、現在の状況で富津市が君津・木更津と競争しようと思ってもなかなか勝ち目はないと思っております。しかしながら、少ない人数ですけれども、子どもの教育のために引っ越すという方もいるということ、私は現実で目の当たりにしておりますので、そのような方々が、富津市を選んでくれるような子育てしやすい環境づくりや施策を展開していきたいとひとつは考えております。また、市外に流出してしまう若い世代の方に関しては、東京への大学進学や就職を考えるとなかなかこちらで生活していくのは現実的に難しいことだと思います。しかしながら、ここにきて、アクアラインの効果で高速バスにより都心に通うことが君津辺りでは常識になってきております。そのような中で、様々なご意見はありますけれども、私の意見としましては、富津市からも高速バスが1日に3、4本ではなく、多くの人達が確実に乗れるだけのバスターミナルが今後の富津市には必要不可欠ではないかと考えております。それによって、若い世代の方がこの地域で生活をしながら、この地域のコミュニティの活動をしながら、学校に通うまたは仕事をするという</p>
-------------	--

	<p>ことが可能になると思います。それに加えて、外部の人達または富津市に住んでくれる可能性が高い方達にとって、隣の地区と比較した時に子育て環境と教育では負けないような施策を行うことが、富津市にとって必要だと考えております。付け加えますと、富津市の人口ビジョンによると、大都市に出て行ってしまった方が多く、そちらから来る人が少ないかというところを決してそうではなく、木更津・君津等の近隣市へ流出している方が多いというところが最も大きな数字になっているようです。私の意見としては、富津市から流出した方々については、木更津・君津で生活ができるのであれば、その内の多くの方は富津市でも生活ができる方々である可能性が高いのではないかと考えます。ですから、そのような人に響くような政策ができればと考えております。現在、そのための施策を考えているところではございますが、皆様のお力をお借りしながら良いアイデアを取り入れていきたいというのが実状でございます。以上です。</p>
<p>宮田委員</p>	<p>ありがとうございました。</p>
<p>事務局 (能城部長)</p>	<p>他に何かご質問・ご意見等はございますか。はい。坂部委員。</p>
<p>坂部委員</p>	<p>はい。いじめ問題についてですが、最近のニュースで福島原発避難児童がいじめにあったということで報道されておりました。富津市にはそのような児童生徒はいるのかどうか、また、その場合には対応ができていますのかどうか教えてください。</p>
<p>高橋市長</p>	<p>はい。市内の小中学校におけるいじめの実態と対応については、教育センターから現状を説明した後、私の考えを述べたいと思いますので、説明を教育センターよりお願いします。</p>
<p>鈴木主幹</p>	<p>はい。いじめにつきましては、各学校で年3回ほど、学期に1回ずつ教育相談を行っていますし、学期ごとにいじめ調査も行っています。また、各学校にカウンセラーが配置されていますので、そちらから得た情報等も含めて市教委で集約を行い、対応について協議し学校と市教委で連携しながら</p>

	<p>ら解消に向けて取り組んでいます。1学期の調査では報告としてあがってきたものが47件（小学校37件、中学校10件）でございました。いずれも解消に向けて取り組むことのできる、重大案件にはいたらないものだと報告を受けております。なお、原発避難の児童生徒についてはおりません。</p>
坂部委員	<p>ありがとうございました。</p>
岡根教育長	<p>大津のいじめ事件がこの制度の発端になっているのですが、教育委員会が賠償問題も含めて苦慮しているところで、ごたごたになってしまっているところを、市長さんがそれではまずいということで、教育委員会と市長とのこのような話合いや、もしも重大事故があった場合には市長が教育総合会議を開けるという、このような制度に変わっております。市長に言われるまでもなく、いじめに対しては感度を良くして情報を得たいと思っておりますが、学校だけの話や地域の声等を聞きますと、こんなことがありますというような声もありますし、市長にも高いアンテナの中で情報が入ってきているのかもしれない。そういった点では、私もできる限りアンテナを高くして、問題が起きた時には対応を速やかにできるようにしたいと考えております。市長のお考えは、いかがでしょうか。</p>
高橋市長	<p>はい。やはり、ふざけているところからエスカレートしていくというのは、子どもの社会の中ではあるのではないかと思います。そのようなところを、現場の先生方に敏感に感じてもらうことが、いじめの芽を摘むひとつの手段ではないかと素人ながらに感じております。いきなり最初からいじめてやろうというよりも、なんとなくエスカレートしていった歯止めがきかなくなるというのが、見たり聞いたりしている中で多いのではないかと私自身は感じております。私たちもアンテナを高くしなければいけないと思っておりますが、現場の先生方におかれましても、アンテナを高く、聞く耳を広くしていただけたらと思っております。</p>
坂部委員	<p>ありがとうございました。</p>

<p>事務局 (能城部長)</p>	<p>他に何かご質問・ご意見等はございますか。はい。宮田委員。</p>
<p>宮田委員</p>	<p>はい。各学校の校舎等がかなり古くなっていると思いますが、それと同時に公民館等の老朽化も進んできているように感じます。今後、施設それぞれを存続させるのかどうか、簡単には決められないことかとは思いますが、何かお考えがございましたら、お聞かせください。</p>
<p>高橋市長</p>	<p>はい。市が保有している公共施設につきましては、正直なところ、今と同じ数を保持し続けることは難しいということがスタートとして、公共施設等の総合管理計画を立ち上げさせていただいたというように私は思っております。そして、今の公共施設の数というのは富津市が目指した人口規模を目標にして建てられているのは否定は出来ないと思っておりますし、そうした中でこれだけ人口が減少してきたときに、本当にその人口でこれだけの施設を抱える必要があるのかということのを改めて市民の皆様にかけていった中で、ご意見をいただきながら適正な規模、形または利用方法に改めるということが必要なのではないかと考えております。いずれにしても、計画を策定させていただきますので、今後はその個別計画の中でまた色々と市民の皆様のご意見をいただいて、方向性を見出していきたいと考えております。私としましては、今までと同じ数をそのままの利用目的で保持していくというのは、残念ですが厳しいと思っております。</p>
<p>宮田委員</p>	<p>ありがとうございました。</p>
<p>事務局 (能城部長)</p>	<p>はい。他に何かご質問・ご意見等はございますか。無いようですので、事務局から何かございますか。</p>
<p>鶴岡課長</p>	<p>ありません。</p>
<p>事務局 (能城部長)</p>	<p>無いようですので、これをもちまして、富津市総合教育会議を終了いたします。本日は、ありがとうございました。</p>

富津市教育施策に係る大綱

平成28年12月22日
富津市長 高橋恭市

富津市及び富津市教育委員会は、「豊かな心を育む教育と文化の香るまち」を目指し、それぞれの施策を推進します。

富津市教育施策に係る大綱を定めるにあたって

1 はじめに

平成27年4月施行の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の3では、「地方公共団体の長は、教育基本法第17条第1項に規定する基本的な方針（教育振興基本計画を指す。）を参酌し、その地域の実情に応じ、当該地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱を定めるものとする。」とされています。このことにより、富津市教育委員会との協議を経て「富津市教育施策に係る大綱」（以後「大綱」という。）を定めるものです。

2 富津市の「教育振興基本計画」

本市では、平成13年3月より富津市第1次、第2次、第3次基本計画を策定し「豊かな心を育む教育と文化の香るまち」目指してまいりました。本年度定めた「富津市教育施策」はこの基本計画に沿ったものです。また、この施策は富津市及び富津市教育委員会がともに目指す教育振興のための施策の方向性を示すものであり、平成18年12月施行の教育基本法が、地方公共団体に策定に努めるよう求めている「教育振興基本計画」の富津市版と言えるところと考えます。

3 本市の施策と教育大綱

本市は、将来に向けて持続可能な行財政運営の実行のため、「富津市経営改革プラン」、「富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略」及び「富津市公共施設等総合管理計画」等を策定しました。

富津市教育委員会には、今後も市長の部局との相互の信頼と連携の関係を大切にしながら、「大綱」に沿って本市の教育・文化・スポーツのさらなる振興に向け努力されるよう期待します。